

1 題材 音楽の特ちょうを感じて

教材 子もり歌

日本の民謡（「谷茶前」「八木ぶし」「江差追分」

「ソーラン節」「五木の子もり歌」

郷土の音楽（「鹿児島おはら節」）

2 題材について

子どもたちは、これまでにいろいろなわらべ歌を歌ったり、第4学年では「いろいろな地方のおはやしをきこう」という学習をしてきている。第5学年では、遊びを取り入れたわらべ歌（「なべなべそこぬけ」「でんでらりゅうば」など）を歌ったりしている。その中で、子どもたちは少しずつ日本の音楽のおもしろさや楽しさに気付きつつある。しかし、日本の伝統音楽の一つである民謡については、関心が薄いように思われる。

鹿屋市では、毎年7月に鹿屋火祭りという祭りがあり、その中で「鹿児島おはら節」や「はんや節」に合わせて踊りを踊ったりしている。そこで、一度は耳にしたことのある「鹿児島おはら節」を授業で取り扱うことで、子どもたちの興味・関心を高めることができるようにしたい。そのために、ただ聴いて歌うだけでなく、和太鼓や踊りを取り入れることで民謡の楽しさを味わってほしいと思い、本題材を設定した。

<郷土教材について>

「鹿児島おはら節」は、明治中期まではヤッサ節と称し、鹿児島情の近郷8か村（旧伊敷村）を中心に島津藩下の農村の農民歌として広く歌われていたが、歌詞の中に織り込まれた「オハラハー」の合い調子が印象深いので、明治中期ごろからおはら節と呼ばれるようになった。

「おはら」という言葉は、参勤交代のお供を承る百姓たちが今日の藩邸に残留待機している間、京都の洛北、大原の里が故郷、小野、伊敷の山並によく似ているので、通い遊んだとされ、帰郷してから旅先の思い出が自然にヤッサ節の中に「オハラハー」と織り込まれたと察せられます。なお、曲はいろいろあるが、最もよく聞かれるこの曲は、昭和9年当時の流行作曲家中山晋平が古いおはら節を編曲したものだといわれる。

<今後の学習への発展>

この活動を通して日本の伝統音楽に興味を持ち、さらに学習を進めたり、自分も伝承に加わりたいという思いを持ち、地域の行事等に積極的に関わっていけるようになるのではないかと期待する。

3 目標

- (1) 日本各地の民謡や郷土の民謡を聴き、歌ったり踊ったりすることで、日本の伝統音楽に興味・関心を持つことができる
- (2) おはら節に合う和太鼓のリズムを考える活動を通して、自ら表現を工夫しようとすることができる。
- (3) 日本の伝統音楽の一つである民謡や和太鼓の良さ・おもしろさに気づき、味わって聴くことができる。

4 教材について

(1) 学習指導要領との関連

- A 表現
- (1) 音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏できるようにする。
 - ア 範唱や範奏を聴いて演奏すること。
 - (2) 曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。
 - ア 歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫すること。
 - (3) 歌い方や楽器の演奏の仕方を身につけるようにする。
 - イ 音色の特徴を生かして、旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
 - (4) 音楽をつくって表現できるようにする。
 - ア 曲の構成を工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現すること。
 - イ 自由な発想を生かして表現し、いろいろな音楽表現を楽しむこと。
- B 鑑賞
- (1) 音楽を聴いてそのよさや美しさを味わうようにする。
 - ア 曲想を全体的に味わって聴くこと。

(2) 郷土教材に関する児童生徒の実態

鹿屋市では、毎年7月に鹿屋火祭りという祭りがあり、その中で「鹿児島おはら節」や「はんや節」に合わせて踊りを踊ったりしている。また、鹿児島市で行われる「おはら祭り」を見たことがある子どもたちもいて、「鹿児島おはら節」は、子どもたちの間では聞いたことのある曲のようである。

並行して用いる和太鼓においては、幼稚園のころに経験した子供もおり、和太鼓の楽しさに気づいているようである。

(3) 指導上の留意点

- ・おはら節に親しむことができるように、歌うだけではなく踊りも取り入れ、日本の民謡に親しむことができるようにする。
- ・おはら節に合わせて、和太鼓をたたいていく活動をすることにより、郷土素材に関わるとともに日本の伝統文化にも触れることができるようにする。

5 指導計画 (全8時間)

過程	時	教材	主な学習活動	○指導上の手立て◆評価
<div data-bbox="236 315 357 405" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題把握</div> <div data-bbox="236 461 357 551" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題追求</div>	1	子もり歌	<div data-bbox="587 315 1098 405" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2つの「子もり歌」を、情景を思い浮かべながら聴いたり歌ったりする。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 陽音階・陰音階の「子もり歌」を聴き、曲想の感じをつかむとともに、違いに気づく。 ○ 情景を思い浮かべながら歌詞唱する。 ○ いろいろな地方の子もり歌を聴く。 「五木の子もり歌」「ようかい」 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容について分かりやすいように補足する。 ○曲想の違いによって歌い方を工夫できるようにする。 ○各地方の子もり歌を聴くことで、いろいろな曲調の子もり歌があるということに気づかせることができるようにする。 ◆日本の歌に関心を持ち、味わって聴くことができる。
<div data-bbox="236 936 357 1025" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題把握</div>	2	祭りばやし	<div data-bbox="587 981 1098 1025" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">和太鼓の演奏を聴いてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ビデオを視聴する。 ○ ビデオを見て気づいたこと、印象に残ったこと、思ったことをノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビデオを視聴することにより、和太鼓のイメージをふくらませることができるようにする。 ○和太鼓の演奏を視聴することで、太鼓の種類やたたき方、姿勢を知ることができるようにする。 ◆和太鼓に関心を持つことができる。
	3	日本の民謡	<div data-bbox="587 1458 1066 1503" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本の民謡をきいてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本各地の民謡を聴く。 「谷茶前」「八木ぶし」「江差追分」「ソーラン節」「五木の子もり歌」「鹿児島おはら節」 ○ 白地図に、聴いた民謡について、印象に残ったことや思ったことを書き入れる。 ○ 鹿児島県に伝わる民謡を聴く。 ・ 鹿児島おはら節 	<ul style="list-style-type: none"> ○日ごろ自分たちが歌っている曲と感じが違うことに気づくことができるようにする。 ◆日本の民謡に関心を持ち、進んで聴くことができる。 ○白地図に曲名を書き込んだり、思ったことを書いたりしながら、楽しく曲を聴くことができるようにする。

課題
追求

4

日本の民謡・祭りばやし

郷土の音楽「鹿児島おはら節」に合わせて踊ってみよう。

- 鹿児島おはら節の振り付けを覚え、全員で踊る。
- おはら節に和太鼓を加えて演奏することを知り、一人2小節ずつ、和太鼓のリズムを考える。

○歌うだけではなく、踊りも取り入れ、楽しむことができるようにする。

○始めに踊ることにより、おはら節に親しみ、和太鼓のリズムを考えやすいようにする。

○なかなかリズムをつくることのできない児童に対しては、リズムカードを配り、リズムを組み合わせるようにする。

◆おはら節に親しみ、進んで和太鼓のふしを考えることができる。

5

6

7

「鹿児島おはら節」に和太鼓を加えて演奏しよう。

- 一人一人考えたリズムをつなぎ合わせ、実際にたたいてみる。
- たたけるようになったら、おはら節に合わせてたたいてみる。
- ビデオでの和太鼓の様子を思い出し、たたき方や姿勢を工夫する。

○グループでつなぎ合わせ、完成したら、どんなリズムになったか確かめる。

○たたきだけではなく、口でリズムを言いながらたたきようにする。

◆進んで和太鼓をたたきことができる。

◆和太鼓のたたき方やたたき姿勢を工夫することができる。

8

まとめ

みんなで「鹿児島おはら節」を演奏しよう。

- グループごとに発表する。
- 各グループのいいところを見つけ発表しあう。

○各グループの発表を見て、いいところを見つけられるように声をかける。

6 本時の実際 (5/8)

(1) 目標

- ・「おはら節」の曲の気分を感じ取り、関心を持つことができる。
- ・「おはら節」に合うふしをグループ全員で協力し、つくり上げることができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	教師の指導上の留意点
つ か む	1. 既習曲を歌う。 2. おはら節を聴く。 ・どんな感じの曲だったか思い出し、聴いたり口ずさんだりする。 3. 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> グループに分かれて、おはら節に合うふしをつくってみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間におはら節を歌ったり、踊ったりしたことを思い出させ、曲の気分を捉えることができるようにする。 ・前の時間に考え、書いてもらった1人2小節のリズムを、事前に確認し、音符の書き方などをチェックし、正しく書けていなかった子どもには書き直しをさせるようにする。
深 め る	(7人のグループをつくる) (1) 自分でつくったリズムをグループの人と組み合わせて、16小節のリズムをつくる。 (2) つくったリズムがどんなリズムか確かめる。 ・できあがったら、見やすいように1枚のプリントにまとめてリズムを書く。 ・言葉のリズムも書く。 (「ドン」や「カカ」) (3) グループで、リズムの確認ができたならばチを使って、練習をする。 ・口でリズムを言いながら打つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれてリズムを組み合わせる際に、組み合わせをいろいろ変えてみるように助言する。 ・16小節のリズムができあがったら、1枚のプリントにまとめて書く。その際に、音符だけでなく「ドン」や「カカ」のように言葉のリズムも書いておくように助言する。 ・組み合わせたリズム16小節分を、グループ全員で演奏するというのを再度確認し、グループ全員で、リズムを確認させるようにする。 ・練習をする際に、口でリズムを言いながら打たせるようにする。 ・各グループがだいたいリズムをつかむことができるようになったら、おはら節を小さく流し、雰囲気をつかませるようにする。
ま と め る	(4) おはら節に合わせて演奏する。 ・練習のときのように口でリズムを言いながら、できる部分を打つようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・おはら節に合わせて演奏するとどのような感じになるかつかむために、できている部分だけでもいいので、演奏するように声をかける。



	4. 次時の学習について聞く。	・次の時間は、実際に和太鼓を使って練習することを知り、次の時間への期待を持つことができるようにする。
--	-----------------	--



本時の実際 (6/8)

(1) 目標

- ・グループでつくったリズムを進んで和太鼓でたたくことができる。
- ・グループでリズムをたたく練習をしながら、和太鼓のたたき方やたたく姿勢を工夫することができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	教師の指導上の留意点
つかむ	1. 既習曲を歌う。 2. おはら節を聴く。 ・どんな感じの曲だったか思い出し、聴いたり口ずさんだりする。 3. 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">おはら節に合わせて、和太鼓をたたいてみよう。</div>	・おはら節を聴いたり口ずさんだりすることで、曲の雰囲気をつかえることができるようにする。
深める まめめる	○グループに分かれて練習をする。 (第1音楽室) (第2音楽室) ・たたき板 (練習板) で練習する。 ・たたき方やたたくときの姿勢をどのようにするか、話し合ったり、練習したりする。 ・休みの部分にかけ声を入れてみる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> この部分で「ヤア!!」って言ってみよう。 </div>  </div> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> 「ヨイヤサア!!」はどうか～? </div>  </div> </div>	・練習がしやすいように、部屋を2つに分けて練習するようにする。 ・和太鼓で練習する際に、7人が輪になって練習することで、グループ全員の息を合わせやすいようにする。 ・できるだけ和太鼓でたくさん練習することができるように、各グループ時間を決めて練習をさせるようにする。 ・グループで工夫したことを称賛し、よりよく工夫ができるようにアドバイスをしたりする。 ・リズムが合うようになってきたグループは、おはら節に合わせて練習するようにする。

<p>足を広げてたたいてみようよ</p>  <p>4. 次時の学習について聞く。</p>	<p>パチをふりあげてみよう。</p>  <p>・次の時間は、担任の先生や和太鼓を作っていた先生などを招待して発表するということを知り、次の時間への期待を持たせることができるようにする。</p>
---	--

〈考 察〉

- ・日本各地の民謡を聴き、民謡の特徴や良さを味わうことは、45分の中では難しいことかなと思いつながりながら授業をした。確かに民謡を聴いた時間は、民謡って何?というような疑問が残ってしまった子どももいた。しかし、「鹿児島おはら節」を歌ったり、踊ったりしていくことで民謡の特徴や良さ、面白さを徐々に感じ取ることができるようになってきた。
- ・おはら節に合う和太鼓のふしを考える際に、うまくおはら節と関連付けさせてふしづくりをさせることが難しく、自分なりにつくったふしをおはら節に合わせて、和太鼓でたたくということになってしまった。
- ・本校には、締太鼓が2台しかなかったもので、どうにか手作りで和太鼓を作れないものかと考え、インターネットなどで調べた。その結果、プラスチックの鉢とトラックの荷台シートを使い和太鼓が作れることを知り、用務主事の方に手伝ってもらい、手作り和太鼓を7台つくった。できた和太鼓は、とても和太鼓らしく、子どもたちもとても興味を持ってくれて、進んで和太鼓に取り組むことができた。
- ・グループで実際に和太鼓を使って練習するうちに、子どもたち自ら「ここでかけ声を加えよう」とか「ここではパチを回してみよう」、「足を開いて力を入れて打ってみよう」というような声を、たくさん聞くことができた。自分たちでふしづくりからはじめ、自分たちでつくり上げたふしを練習することで、向上心が出てきたのではないかと思った。

おはら節に合わせて 和太鼓をたたいてみよう!!

5年1組 名前

おはら節を歌いながら、和太鼓でたたいてみた
いリズムを2小節考えてみよう。下のリズム
を自由に組み合わせよう。

Box 1 patterns:
 1. Note: ドン, X: カン, カン
 2. Notes: ドド, X: カ, カ
 3. Note: ウン, X: ドン
 4. Notes: ドド, X: カ, カ

Box 2 patterns:
 1. Note: ドン, X: カン, カン
 2. Notes: ドド, X: カ, カ
 3. Note: ウン, X: ドン
 4. Notes: ドド, X: カ, カ

2
4

♪ ド ド | ドン | X | ウン

じょうぎをつかって書いてね!!

どんなリズムがでできるかな??

おはら節リスム譜 (E) グループ